

ASIRU —アシル—

令和5年9月25日発行 第19号



学校教育指導訪問（計画訪問②）がスタートしました

学校教育指導訪問（計画訪問②）がスタートしました。第14号でお知らせしたとおり、計画訪問②は、特設授業の参観や全教員による協議等を通して、計画訪問①でお伝えした「学力向上に係る学校課題」の改善に向けた組織的な取組の進捗状況を把握し、取組の改善に向けて必要な情報を提供させていただくことを目的としています。本号では、組織的な取組の好事例として、9月13日（水）に実施した、浜中町立霧多布小学校における計画訪問②の様子について紹介します。

特設授業「第4学年算数科～わり算の筆算（2）」 授業者 森 侑耶 教諭

浜中町立霧多布小学校では、森 侑耶教諭による第4学年算数科「わり算の筆算（2）」の特設授業を行いました。



霧多布小学校における計画訪問①では、学校として育成を目指す資質・能力の育成に向けて、

- ①自己の学びを調整したり、粘り強く取り組んだりするための学習環境の工夫
- ②課題の解決に向けて、自ら「考えたい」「表現したい」という思いをもてるような、児童の思考に寄り添った単元のデザイン

の充実を図るよう、指導主事が指導助言を行いました。

森教諭は、児童が学びを調整したり、粘り強く取り組んだりすることができるよう、児童の学習活動に取り組む時間を十分に保障したり、児童の必要感に応じて交流を促したりするなど、「学習環境」を工夫するとともに、児童が単元を見通して問題の解決に取り組めるよう、単元の導入において、終末の学習活動を児童と共有するなど、「単元構想」を工夫していました。



学習活動の中で指導を行う森教諭の様子

実際の授業では、「自分にとって最適な計算方法を見つける」という学習課題のもと、 $2000 \div 250$ 、 $3465000 \div 315000$ の問題に取り組む学習活動が設定されており、「0に着目して、習ったわり算の性質を使うと計算できると思うよ」「～さんの考え方を参考にすると、自分でも計算できそうだよ」など、数学的な見方・考え方を働かせながら、前時までに獲得した「知識及び技能」を活用して粘り強く取り組んだり、友達の考え方を生かして、自己の学びを調整しながら問題を解決したりする児童の姿が見られました。

計画訪問①の指導助言を踏まえた「課題の改善に向けた組織的な取組の成果」が、森教諭の指導や児童の姿に現れていました！



全教員による研究協議

霧多布小学校の教員だけではなく、霧多布中学校の教員も参加し、授業改善に向けた研究協議を行いました。

訪問した指導主事も協議に参加し、全教員が複数のグループに分かれて、児童の「発言」「表情」「しぐさ」「記述」等に注目しながら、発言や行動の理由を探るとともに、表出された発言や行動から、本時の評価規準が達成されたのかについて協議しました。

研究協議の最後には、指導主事が浜中町教育委員会 伊藤 善一指導室長とともに、特設授業における児童の姿や研究協議の内容を踏まえて、今後の授業改善に向けた具体的な方策について指導助言を行いました。

今後の研究推進に向けて

【課題の解決に向けた多様な選択肢の充実】

- 児童が1人1台端末を課題解決の選択肢にできるよう、児童の実態に応じた活用方法を具体化し、児童と指導者が共有する
- 努力を要する児童一人一人に対し、各1単位時間における具体的な指導を想定し、授業内で学びの個別最適化を図る

【指導と評価の計画の充実】

- どのようなよさや価値への気付きが、児童の粘り強い取組や学びを自己調整する契機につながるかを十分に検討する
- 3観点に応じた姿を、無理なく表出できるよう、3観点の関係性を理解するとともに、単元(題材)を見通して意図的・計画的に位置付ける

指導助言で提示したスライドの一部

本時における児童の姿を根拠として、評価規準と照らし合わせながら協議を行ったことにより、本時において講じた手立ての有効性について考えを深めていく先生方の姿が見られました！



<義務教育指導班からお知らせ>

自校の授業改善に向けて、是非、オンライン相談を御活用ください。オンライン相談に係るお問い合わせは、右記までお願いします。(担当：主任指導主事 齋 0154-43-9283)